規制・制度改革の取組の方向性（案）

資料２

（基本的な考え方～現場を起点とした改革の３つの視座～）

① **「挑戦の意思」や「暮らしの不便」を起点**に、**改革の成果を早く届ける**

国内投資と技術革新を促進し、**企業が挑戦できる環境の整備に力点**を置き、**「日本成長戦略」の具体化に資する事項は優先的**に取り扱う。

あわせて、地域の移動の足不足など、**暮らしに身近な課題**も**積極的に取り扱う**。

ＡＩをはじめ**技術革新の動向を先取り**し、**年内に結論を出す課題と、年明けに深堀りする課題を見極め**、「国民ファースト」の改革を進める。

② 目指す暮らしや産業の姿から逆算する**「理想社会実現型」の改革を目指す**

例えば、「車を運転しなくても通院できる」「ロボットが人手を補って現場を回せる」「世界最先端の技術が身近で使える」といった目指す姿から工程を考え、現場企業／団体要望を踏まえるだけでなく、政府自ら**あるべき改革の姿を積極的に提起**する。

③ **ＡＩ時代の変化を先取りし、ルールを機動的に見直す**

- **事前の一律規制でなく**、将来の変化を前提に実証と学習を通じてリスクと課題を的確に把握し、継続的に更新していく**「責任あるアジャイル・ガバナンス」**の考え方を踏まえる。
- **他の会議体**（※）**と連携**し、**府省横断的な「改革原則」も踏まえて「各論」に取り組む。**

  （※）ＡＩ・デジタル改革推進会議、日本成長戦略本部　など
- **規制改革ツール（規制のサンドボックス制度、新事業特例制度、国家戦略特区制度等）も最大限に活用**し解決策を模索する。

想定される当面の検討課題

ＡＩ・デジタル推進

：年内検討開始事項

○「ＡＩ・デジタル改革原則」（ＡＩ・デジタル改革推進会議で検討）を踏まえた各論の具体化
- いわゆるアナログ規制の一斉再点検（デジタル庁等とも連携）
- 士業の業務でのＡＩサービス活用（士業の業務規定とＡＩサービスの関係整理）
- フィジカルＡＩ等の社会実装に向けた実証事業の円滑化・体制整備

○ ＡＩロボットの更なる活用促進
○ 産業データのＡＩ-Ｒｅａｄｙ化
○ エージェンティック・コマース環境整備
○ オンチェーン金融の推進
など

地域活性化/自動運転・モビリティ

○自動運転・ロボタクシーの社会実装
○ ドローン/空飛ぶクルマの事業環境整備
○ 農地集約化、スマート農業の促進
○ 暮らしの安全の確保
- 所有者不明土地におけるクマ被害対策の促進

医療・介護等

○ 医療等データの利活用の促進
○ 医療分野におけるＡＩ活用範囲の明確化
○ 医療・介護の持続的・効率的な制度の推進
- オンラインでの医薬品販売の整備
- 患者本位のプライマリ・ケア体制整備

イノベーション・ＧＸ促進

○ スタートアップの成長促進
○ ＧＸ関連インフラの導入・整備の促進
- 送電鉄塔建替工事に係る手続の合理化

人材力の強化

○ 私立大学の統合・再編の円滑化
○ 柔軟で多様な働き方の実現に向けた環境整備
○ 離職者に対する経済的補償制度

ＡＩの利活用において障害等となる規制・制度についての情報提供

※内閣府（規制改革推進室、人工知能政策推進室）、デジタル庁、経済産業省の連名で実施

募集概要

募集件名：**ＡＩの社会実装において、障害となる又は不十分な効果をもたらす規制・制度についての情報提供のお願い**
募集期間：**令和８年10月２日～10月30日**（周知期間：10月２日～18日、投稿受付期間：10月19日～30日）
募集対象：ウェブフォームにて国民の皆様に募集

提供された情報の概要

情報提供総数：274件（提供元：法人（営利・非営利）、独立行政法人、地方公共団体、大学、個人等））

○ 提供された情報の傾向として、現行の規制・制度について、
- **適法にＡＩを活用する基準が不明確**であるためＡＩを活用できない
- **人のみの実施を前提**としており、**ＡＩ活用が想定されていない**

などの情報が多く寄せられた。

○ 情報提供は、ＡＩの開発・研究を担う**情報通信業**や**学術研究**、**専門・技術サービス業**に加え、フィジカルAIの活用が見込まれる**製造業**、ＡＩによるサービスの質の向上が期待される**医療・福祉**など、ＡＩ利活用が期待される幅広い分野から寄せられた。

（提供された情報の例）
- **防爆エリア**における自律移動**ロボット運用の安全条件**の明確化
- **弁理士法**におけるＡＩ活用の明確化
- **エージェンティック・コマース**に係る各種業法の解釈の明確化
- 元請け・下請け間における**機械可読可能な設計データ提供**の促進

